

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-1
道路網の整備と維持管理

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 土木部 都市計画課長 西村成人 電話番号 0852-22-5209

事務事業の名称	街路整備事業	
目的	(1) 対象	市街地の道路利用者
	(2) 意図	安全で快適な街路整備により、都市内の移動や活動を容易にする。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の交通円滑化や地域間交流に資する、都市の骨格となる街路整備を進める。 安全で安心な歩行空間の確保のため、歩道整備を進める。 中心市街地の活性化に取り組む市町のまちづくりと連携した街路整備を進める。 歴史文化などの地域資源を生かした魅力あるまちづくりに資する街路整備を進める。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 街路整備率	目標値	69.7	69.7	69.9	69.9	70.1	%
	式・定義 (H25末+街路事業による改良実延長) / H25末幹線街路都決延長	取組目標値						
		実績値	69.3	69.3	69.6			
		達成率	99.5	99.5	99.6	-	-	%
2	指標名	目標値						%
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,945,502	2,460,035
うち一般財源 (千円)	325,885	248,632

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

・県内の幹線街路については、未だ整備されていない計画延長が110.63kmある。(H28.3.31現在)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

・国の重点施策を踏まえ、また事業執行にあたっての柔軟性を確保するために、交付金の整備計画を一本化した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

・道路利用者にとって、事業の完成年度が見通せない状況である。

②困っている状況が発生している「原因」

・交付金の配分額が安定していないことや国の重点施策の枠組みが変更になることがある。
 ・数年前から事業個所の選択と集中を進めた結果、事業の執行の平準化が困難になりつつある。
 ・新大橋、新高角橋、宇迦橋などの大規模構造物の工事がほぼ同時期に予定されている。
 ・市街地での工事であるため、多様な意見・要望がある。

③原因を解消するための「課題」

・予算の確保と施工時期の調整が必要

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・国の重点施策の動向を見極めながら、必要に応じて整備計画の変更や要望活動などにより予算確保に努める。
 ・用地の先行取得制度や債務を利用した年度間の事業費の調整をする。
 ・構想段階からの住民参加、説明会や広報活動を充実させることにより、街路整備事業に対する理解と協力を得る。